

波しづかなるひまもなし  
世はかくありとしりつれど

わはれ光明の御國をば  
たいひとすじに望めかし  
心にかけてたのめかし  
荒む世のかぜあらくとも

### 兒童の個性

松本孝次郎

個性といふことは委しく云へば個人性といふことである。即ち人は各特性を有つて居て幾分か異つて居る處があります。兒童もまた早くから已に各特別の性質を有つて居る。之を兒童の個性又は個人性といふのである。

心理學で人の心の話を聞いたり、教育學の方で教育の話聞くのは共通の場合に付いての話を聞くのであるから、是等の人か實際教育の任に當つて見ると、學理の通りに行かぬものであるといふことを知る。何故學理の通りに行かぬかといふに凡て兒童は各個性といふものを有て居るからである、故に教育者は個人性といふことに注意を怠つてはならぬ、そこで個性に付て如何なることを心得て居らねばならぬかといふに先づ個性は如何にして生ずるかといふことである。

家庭の異なるに従つて各異つて居る個性を生ずといふことは勿論であるが同じ家庭に居る兄弟でも同じ精神を有つことは出来ぬ。この原因の主なるものが三つある。

#### 一、身体的の要素

二、社會的の要素

三、遺傳的の要素

一、身体的の要素、身体の強弱健否といふことである。体の弱い者は神経系統も弱く從て精神が激昂する。或は兒童の食物や氣候等は身体に影響して、從て精神にも影響する。

二、社會的要素、兒童の性質は其境遇の如何に由て變るものである。兒童が常に年長の人ばかりの中に生活して居ると早熟になる。ことに年長の人と共に居ることは兒童のため大に考ふべきことである。早熟は精神發達が身体發達に伴はぬもので身体の割合に精神の發達し過ぎるのを云ふのである。元來兒童は模倣力の強いものであるから見聞することの眞似をする。ことに多人數集る處では其中の勢力家の眞似をする。是に由て精神に影響

がある。其他雙方、教育の仕方等に由つて精神が異つて來るものである。

三、遺傳的要素、子供には生來遺傳といふことがあつた。如何なることか遺傳するかといふに、それはよく分らぬ、即ち大切な性質が遺傳して居るかと思へば又些少のことが遺傳して居る。つまり素質又は稟賦といふものが遺傳するのである。親が癩癩持であると其子も癩癩持になるといふやうなことのあるのは癩癩其ものが遺傳するのではなくて癩癩の起り易い性質が遺傳するのである。それは丁度肺病其ものが遺傳するのでなく肺病にかゝり易い性質が遺傳するといふのと同じである。特に精神病に付しては遺傳といふことがよく分る而して女親が持つて居ることは女の子に、男親の持つて居るものは男の子に遺傳するものである。

個性は大凡以上の要素が色々に働いて出来るものである。之を一言でいへば智情意の交はつて居る分量が色々變つて居るから其ために人毎に心の有様か異つて居るのである。昔から人の心は其顔の異つて居る如くに異つて居るものであるといふて居りますが實に其の通りである。

斯く考へ來れば人の個性は種々様々であつて、從て之を研究することが困難であつて之を教育する規則などは分らぬ様であるが、しかし又人には共通の點が澤山あるから、個性といふものを研究することが出来る。

兒童が其智識を得るのに多く用ゐる感覺機關は各異つて居る。これを大別して見ると左の通りである。

一、皮膚覺的(觸覺的)典型

二、視覺的典型  
 三、聽覺的典型  
 四、筋覺的典型

一、皮膚覺的典型、これは凡て物の智識を得るに觸れて見て得るのである。故に普通の人よりも盲人に於て斯様の人が多し。觸覺では如何なる度まで人を發達させる事が出来るかといふに盲人にして高等教育を受けることか出来るのを以て見れば其の大に發達し得ることが分る。子供は生後五六ヶ月より二年前後に至るまでは自分の近傍にあるものを握らんとするものである。この間、子供は觸覺によつて多くの智識を得る。又子供が手に握つたものを口に持つて行くのは之を食せんとするのではなく、皮膚の中で尤も感覺の鋭い口唇にて感覺せんとするのである。しかし盲人でない子

供に於ては皮膚の感覺の効は著しくないのであることは確である。

二、視覺的的典型、目で見たことをよく記憶し、かつ思ひ出すものである。人に斯くの如き特性のあることは二十年前に英國のカルトンが始めて注意したのであるが、近來は教育上大に大切のこととして研究される様になつた。少し研究すれば子供がこの典型に屬するか否かを知ることか出來る、即ち斯かる傾向を有する子供は同じ物体の形容をするにも目で見たことをもつて話す。大人にも斯様な人は多くあります、何れも此の類の人は話すことが巧である。俗に黄色い聲、とか赤き心とかいふ其形容詞は目で見た處のことをもつて聲或は心を形容して居るのである。

三、聽覺的典型、耳で聽たことをよく記憶する。

又考へるにも聽たことを直に考へ出すものである。音樂家には此性質が必要であるが、有名な音樂家といはれる人は皆此の典型に屬するもので、子供の時から聞き覚えの曲を直に歌つたり又彈したりするものがある。しかしこれは幼い子供には極めて少ない。けれどもこれは子供は性來此の典型にならぬのではない。此の典型に發達する様に教育することが欠けて居るからである。

子供が視覺的又聽覺的典型の何れに屬するかといふことを知るには、或る實物を見せて置いて、三十分後に其見たことに付て話させる。又或る話をして後にこれを話させる。そして二つの中何れをよく記憶して居るかを驗する。此の如き方法に由つて數回試みれば何れが得意であるといふことは分る。又少し發達した子供には或る問例へは

バイオリンは如何なるものであるかといふ様な問に對して答をさせて其答が形と聲の何れに屬するかを知れば何れの典型に屬するかは分る。

四、筋覺的典型、筋肉の運動に訴へたことをよく記憶して居る。これは技藝に關するものをするのに必要である。或る人は筋覺に長して居る人である。故に此人は常に兵士が道を通るのを見れば彼等は如何に筋肉をはたらかせて居るかを思ひ出さずに居られぬといふて居る。俗にいふ器用の人といふのは皆この筋肉の運動に、よつて得たことをよく記憶して居る。又字の讀める兒童に讀書させると或る兒は字を見て居て黙讀する、又或る兒は舌、唇を動かして音讀する。其筋肉を動かして讀む方の人は筋覺運動に長して居る人である以上述へ來つた如く子供が何れの感覺機關を尤

もよくはたらかすかといふことを知るに由つて其簡性を知ることが出来る、今茲に一本の直線を引きて三分乃至五分間これの子供に見せて置いて然る后これを消して再び前と同様のものとそれよりは長いもの短いものの三様の直線を引きて、三つの中何れが前に見たものと同じであるかを答へさせる。そうすると視覺に長した子供は正しい答をする。又子供に目を閉ちさせて手を机のふちに於て、三寸程動かして十五分又は三十分後に再び目を閉ちさせて前と同じ丈動かして其動いた長さとの前の三寸とを比較して見る、其差が少なければ少ない程筋覺に長して居ることか分る。今日では年令に由つて子供の典型が異るといふことを云ふ。しかしこれは未だ十分に分らぬことである。

運動的兒童、感動的兒童

子供には運動的、感動的の二種がある。如何なる理に由つて斯くの如き區別が起るかは別問題として實際子供を見て居るとこの二種のあることはよく分る。即ち運動的兒童は刺激を受けると直に運動する傾を有するものである。此種に屬するものは智識を求むる目的が何かこれを運動に表はしたといふのである。又今一の感動的兒童は自分で余り運動せずして考へて居る。又子供はよく泣くものであるが同じ泣いても運動的の兒は直に何かに氣を轉しさせることが出来る。けれども感動的の兒はなかく泣きやまぬ。凡て運動的の子供は心の様子を全く外部に呈はすものであるが感動的の子供はこれと反對で只心の中で考へて居るから教育者の方で推察しなければならぬ。

家庭の内に音楽がなければ陰氣である。家庭には必ず樂器を備へねばならぬ、樂器がなければ歌うても宜しい。細君が歌ひ、子供が歌ひ、主人も歌ふと云ふことになる、家庭の趣味は益々増して来る、従つて子供の氣韻を高め、理想を高くすることが出来る。  
(宮川經輝氏談)

東君著「幼稚園保育法」

を讀む

市川源三

畏友東君、頃者「幼稚園保育法」てふ一書を公にせられ、一本を手に寄せられたり。予や、幼稚園に關して、殆ど、何等の知識を有せざるもの、本書によりて得るところ、甚だ多し。されど、人各々心あり、又議すべく望むべきこと無しといふべからず。よりにて爰に聊か妄言を陳して、かつは、己れの疑を説き、かつは君の好意を空しうせざらんすとす。